

〇〇のみなさん、こんにちは。日本共産党です。今日は、日本共産党の演説会の一案内になりました。来る10月12日、日曜日午後3時から、袖ヶ浦市民会館大ホールにおきまして、日本共産党演説会を行います。「こんな社会でいいのか」「日本の政治をどう変えるのか」、という討論でおなじみの党政策委員長、小池晃参議院議員がお話します。市議会議員の「のぎき典之」も話します。ぜひ、ぜひお聞きください。

みなさん、麻生政権が誕生しましたが、汚染米被害の拡大などは「吹く風で、暮らしの問題を国会で論議しないまま、新政権のボロが出ないうちに解散しようとする動きがあります。こんな「ボロ隠し解散」は許されません。日本共産党は、今度の総選挙で、政治の自身を変えるために全力でがんばります。

高齢者がたいへん怒っている「後期高齢者医療制度」は、小泉内閣のもとで行われた2000年の医療制度の改悪の際、「高齢者の医療制度は別枠にする、高齢者にかかる医療費には上限を設ける」という付帯決議が採決されたのが源流です。「この付帯決議に反対したのは日本共産党だけでした。しかし今では、国民の声と日本共産党のがんばりで、参議院では野党4党の廃止法案が成立するところまで来ています。今度の総選挙で、日本共産党を大きくしていただき、何としても「後期高齢者医療制度」を廃止させましょう。

今日のワーキングプアと呼ばれる貧困と格差を生み出したおおもとの一つには、派遣労働を原則自由化するという、1999年の労働者派遣法の大改悪がありました。これにも自民、公明だけでなく、民主も社民も賛成してしました。日本共産党は、大量の低賃金、使い捨ての労働者を作り出すと、この大改悪に正面から反対を貫きました。働く人を大切にする政治に変えるために、日本共産党をどうか大きくしてください。

農業問題も深刻です。世界的な食糧危機が叫ばれる中で、日本の食料自給率は39%までに落ち込んでしまいました。国際的な義務もないのに米を輸入し、しかもこれが農業やカビに汚染されている。その一方で減反を押し付ける、こんな自民党農政の転換は、いよいよ待たなすです。アメリカの圧力による農産物輸入自由化にきっぱり反対し、食の安全と農業の再生を高く掲げる日本共産党を何としても大きくしてください。

みなさん、国の政治がひどい時こそ、市民の暮らしを守る市政の役割が大事です。日本共産党の「のぎき典之」は4年前、口封じのための議会での懲罰にも断固拒せず、袖ヶ浦駅北側開発の無駄使いを追及し、住民のみなさんとともにたたかい、ついには昨年の住民投票で断念に迫り込みました。袖ヶ浦市の豊かな財政を無駄使いではなく、市民の暮らしと福祉のために使えと市長に迫り、来年からは中学3年生まで医療費を無料にするというができました。このたびは、国保税を一世帯4万円引き下げるために、全力でがんばります。市民に支えられ、袖ヶ浦市政を常にリードしてきた、日本共産党の「のぎき典之」を、今度も議会で働かせてください。よろしくお願いします。（ただし、〇〇を求める署名運動を進めています。ぜひ協力ください。）

暮らしの問題をおもとから変えるには、市政とともに、やはり国の政治、税金の集め方、税金の使い方を変えることが大事です。年間7兆円にもおよび大企業や大資産家への行き過ぎた減税、大半が無駄な道路に10年間で7兆円もつぎ込む「道路特定財源」、さらに疑惑にまみれた軍事費や凶悪犯罪を起し続ける米軍への「思いやり予算」、これらにメスを入れれば、消費税に頼らなくても福祉や医療を支えられ、日本共産党は考えています。企業・団体献金も政党助成金もいっさい受け取らず、平和憲法を守りぬく日本共産党だからこそ、これらの改革を実行できます。

みなさん。自民党内の政権たらいまわしでも、自民と民主の政権のキャッチボールでも、アメリカと財界いなりを続けるかぎりの国民の暮らしは守れません。今度の総選挙でも、市議選でも、日本共産党を大きく伸ばして、政治の自身を国民本位、市民本位に必ず変えましょう。

最後に、10月12日、日曜日午後3時、袖ヶ浦市民会館大ホール、日本共産党演説会へのご参加を、重ねてお願いいたします。この場での訴えを終わらせていただきます。長い間、ご協力ありがとうございました。